

富士山と共に生きる まち

持続可能な社会を目指して

雄大な富士山の豊かな自然環境の恩恵を受けている小山町では、身近な環境に対する意識を高め、環境保全に努めています。



富士山一斉清掃

須走浅間神社やふじあざみライン、5合目駐車場、小富士遊歩道などで清掃活動を行い、ごみの持ち帰りと登山マナーの啓発を行っています。

また、秩序ある登山を維持し、環境負荷を減らすための方策として、富士山須走口のマイカー規制を実施しています。

令和5年には、富士山須走口5合目インフォメーションセンターがオープンし、自然環境や登山マナー及び須走口に関する情報発信を行います。

環境への意識の醸成

町では、町内各所で実施する一斉清掃などの環境美化活動により、環境美化に対する地域住民の意識の醸成を図っています。

富士山の自然環境を守り、いつまでも美しくすることを目的として、毎年、多くの企業、団体が参加し、「富士山一斉清掃」を行っています。富士山一斉清掃では、



湯船原地区太陽光発電事業・湯船原工業団地

再生エネルギーの推進

町では、災害に強く持続可能な太陽や水、森林などの豊かな自然資源を活かした再生可能エネルギーの導入を促進しています。



DREAM Solar ふじおやま

静岡県の「再生可能エネルギーを活用した産業拠点整備事業推進区域」に指定された「湯船原地区」において、平成29年9月から太陽光発電事業を行っています。発電所名は「DREAM Solar ふじおやま」で、東京ドーム約6個分に相当する27ヘクタールという広大な敷地面積を誇り、16・4MW約4100世帯を賄う電力量に相当します。

太陽光発電の操業により、脱炭素社会の推進のほか、有事の際の、地域の非常用電源確保にも寄与します。

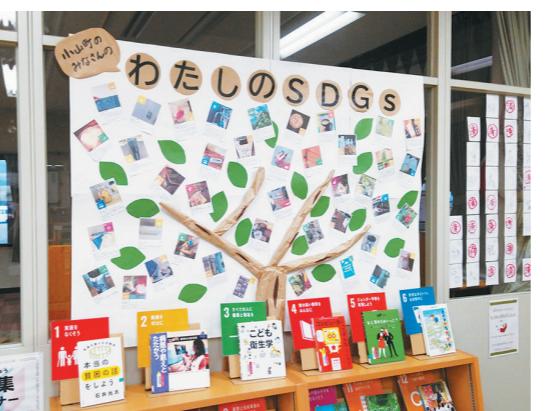
地域資源の循環



木質バイオマス発電所

町では、林業をはじめとする町内の地場産業の活性化に寄与し、災害に強い強靭な森林づくりと地域づくり、温室効果ガスの削減などを目的とした木質バイオマス発電事業を平成30年9月から行っています。

発電資源は、未利用間伐材を使用した木質ペレットで、地域の材を活用することで地域資源循環型社会、持続可能な社会形成に向け、周辺環境との調和と地域経済への好循環を図っていきます。



持続可能な開発目標（SDGs）とは、平成27年（2015年）9月の国連サミットで採択されたよりよい世界を目指すための目標のことです。町は、令和3年3月に策定した「第5次小山町総合計画」の各施策を講じることにより、SDGsの推進を行っています。

令和3年9月には、SDGsフェアを総合文化会館で開催しました。



フードパンtry

食べられるのに捨てられてしまふ食品、いわゆる「食品ロス」は、日本では年間500万トンを超える大きな問題となっています。町や小山町社会福祉協議会では、家庭などで余っている食料を集め、必要としている福祉施設や団体などに寄付する「フードドライブ」の実証実験などをを行い、食品ロスの削減と資源の循環化に取り組んでいます。

SDGsの推進

食品ロスの削減

各目標に対する町の取り組みや、町民の皆さんから募集したSDGsの取り組みなどを紹介し、SDGs推進のための周知を行いました。



富士山と共に生きる

まち

近年地球温暖化が一因とされる気候変動は、人々の暮らしや生態系に影響を与える深刻な問題となつており、町においても、令和元年10月の台風19号では山間部での土砂災害、家屋への土砂流入など大きな被害をもたらしました。このような中、世界各国や我が国では、2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しています。

町でも、令和4年3月に「小山町ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。

ゼロカーボンシティの推進

2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指し、富士山麓の森林保護に関する取り組み、再生可能エネルギーの導入、ごみ処理や上下水道など生活インフラにおける取り組み、公共交通の利用促進や環境負荷の少ない交通の普及促進に関する取り組みを推進していきます。

なお、令和4年5月には、富士山の麓にある富士市、富士宮市、御殿場市、裾野市、小山町の4市1町が共同でゼロカーボンシティ宣言を行いました。

広域での宣言をきっかけに、脱

炭素社会の実現に向けて関係市町とも協力し、各施策に取り組みま

美しい富士山を、未来のために守る ～CO2排出量実質ゼロに！～

富士山ネットワーク会議(富士市・裾野市・富士宮市・御殿場市・小山町)“ゼロカーボンシティ宣言”の取組

ゼロカーボンシティ宣言

脱炭素社会の実現に向けて
2050年までにCO2(二酸化炭素)
排出量を実質ゼロにすることを目指す
地方自治体(ゼロカーボンシティ)が
表明するもの



富士山ネットワーク会議では、令和4年5月24日に「ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。

4市1町が連携し、持続可能な地域の発展に向けて、脱炭素社会の実現に貢献するため、地域の皆様とともに一体となって次の4つの取組を推進し、2050年までに地域のCO2排出量実質ゼロを目指します。

宣言文については、
富士市WEBサイト
<http://>



宣言の様子(御殿場市遊RUN/一ケ玉桃)

1. 富士山麓の森林保護に関する取組
2. 再生可能エネルギーの導入やエネルギーの地産地消に関する取組
3. ごみ処理や上下水道など生活衛生インフラにおける取組
4. 公共交通の利用促進や環境負荷の少ない交通の普及促進に関する取組

※詳細は4ページに掲載

また、以下の取組を進めています。

- 4市1町の各広報紙にゼロカーボンシティに関する取組を掲載し、普及啓発を図る。
- 衣食住・移動・買い物など日常生活における脱炭素行動と暮らしにおけるメリットを整理した「ゼロカーボンアクション30」の取組を推進し、具体的な脱炭素行動を促進する。

=次ページでは、「ゼロカーボンアクション30」について説明しています。

清らかで豊かな水



恵まれた自然資源である湧水

町には、恵まれた水資源があり、須川流域における湧水群をはじめとする環境は、貴重な財産となっています。良質で豊富な地下水は、農業用水をはじめ工業用水、生活用水に利用され、本町では地下水を資源とした地域産業が発展してきました。水資源は貴重な自然資源であり、町の財産です。この湧水を活用して、水菜、わさび、マスの養殖などを行っています。

採取と保全のバランスを取り、有効に活用していきます。

安全な水の供給と適切な下水処理

快適な生活を送るために安全でおいしい水道水の安定供給が欠かせません。

そのため町では、古い水道管の布設替えや、配水場の改築、ポンプなどの電気設備の定期更新といった様々な工事を実施しています。

これからも、将来の水需要に対応できるように水質の保全と水の安定供給に努めていきます。

また、河川の水質保全、生活環境の改善などを目的として須走地区を公共下水道の事業区域として運営しています。

下水道のない区域には、合併処理浄化槽の設置を奨励し、補助金を交付しています。



水道管の布設替え